

# 講義要綱

2023年度

(令和5年度 3年次)



学籍番号		氏名	
------	--	----	--



\*\*\*\* 目次 \*\*\*\*

履修の手引き	1
年次別教科課程進度表	5
年次別履修科目と時間数	6
統合分野別進度表	7
基礎分野	8
生命倫理学	
専門基礎分野	9
総合医療論、死生学	
統合分野	11
看護の統合と実践	
教科外活動	17
テキスト一覧	21

## I. 実践する力

1. 感じる力・考える力・伝える力・振り返る力を活用し思考しながら、看護を必要とする人々にとって最善な看護とは何かを創造し、実践につなげる。
2. 実践した看護実践を振り返り、さらによりよい看護を探求する。
3. 状況に応じてアセスメントし、健康状態の変化、リスクを判断する。

## II. 思いやる力

1. 自己を顧みて、ありのままの自分を受け入れる。
2. 相手の立場に立って、相手の状況や感情を理解する。

## III. 責任と役割を果たす力

1. 看護専門職者として、人の生命(いのち)をかがえのないものとして尊重する。
2. 看護専門職者として、あらゆる人の権利を尊重する。
3. 看護専門職者として、状況に応じて良識ある行動をとる。
4. 看護専門職者として、自己の力量に応じて判断し、その時の最良を考えて行動する。

## IV. 地域社会に貢献する力

1. 地域における看護専門職としての役割を理解する。
2. 地域の特性を知り、その地域で暮らす人々の生活に適した健康支援のあり方について考える。
3. 地域における保健医療福祉チームの一員として情報交換する。
4. 多職種の機能、役割を理解し尊重する。

## V. 看護を探求する力

1. 看護を取り巻くあらゆるものに関心を持ち続ける。
2. これまでの学習経験を踏まえて、自己の看護観を明確にする。

## 《看護師という専門職になるために学ぶとは》 副校長 亀澤 ますみ

### 「看護師になる」とは

看護師とは、傷病者や妊産婦の療養上の世話をし、診療の補助を行うこと、そして「人を看る」という看護師独自の視点で観察し、判断し、人々の生命や生活を支えるために行動する専門職です。看護師の職能団体である日本看護協会はプロとして必要な力を「ニーズをとらえる力」「ケアする力」「協働する力」「意思決定を支える力」の4つを示している。専門的な知識と技能、そして4つの力を身に付け、国家資格を有する職業人になるということ。

複雑で奥深い学びです。決して簡単ではありません。だから、土台からしっかりと丁寧に積み重ね、自分という人間が「看護師」になることを目指していきましょう。

### ・看護師として、専門職者になるためには

本校のディプロマポリシーは、看護師の4つの力に繋がるための卒業時に到達すべき目標です。学校も、皆さんがこの目標を到達できるよう共に考え、支援します。しかし、このディプロマポリシーの内容は、簡単に身につけ、使える能力ではありません。なぜならば専門職になるための能力であり「人を看る」という深い知識と思いやり、判断力や行動力を全て統合しながら、根気強く積み上げていく学修が必要だからです。このことを自覚し忍耐強く取り組みましょう。この認識、自覚が持てなければ、看護専門学校として支援してもディプロマポリシーの到達は不可能です。学校が皆さんを看護師にすることはできません。看護に答えはありませんから、答えとなるものを探求する姿勢を持つ皆さん自身の自覚と努力が看護師へと成長させるのです。皆さんは近い将来、看護師として4つの力を身に付け、この力を人々のために使える人になるよう日々学んでいます。今、自分自身の将来を支える貴重な時間と場所にいます。この今を、共に学び大切にいきましょう。

### ・履修に際して心掛けること

- 1) 看護師になる事は「夢」でなく手の届く目標です。1年間を俯瞰し、いつ、何に向かって、どのように行動すべきか具体的な計画を立て、主体的に取り組む。
- 2) 他者から学び、他者と共に成長しあい、自分という人間を知り、理解する。
- 3) 単に学生としてだけでなく「医療従事者に準ずるもの」として自身の判断と言動に責任と自覚を持つ。
- 4) 「失敗は成功のもと」失敗で終わることなく「なぜだろう」と自分自身に問いかけ、自身の思考や言動を振り返り、失敗を認め修正する勇気を持つ。
- 5) 「謙虚に学ぶこと」この姿勢こそ、成長の鍵！  
謙虚とは、自分を偉いものと思わず、素直に他に学ぶ気持ちがあること。
  - ・感謝の気持ちを忘れず、それを伝える。
  - ・人の話をしっかり聞き、聞けていることを相手に伝える。
  - ・人のせいにしない、自分にも反省点や課題があったことを認めよう。この3つの行動は、謙虚さであり、人と人が関わり合う基本的なマナーです。

# 履修の手引き

この手引きには、履修のための大切なことが書かれています。熟知かつ活用して、効果的に学習しましょう。必ず皆様の良きナビゲーションになるでしょう。

学生便覧「単位取得規程」を熟読し、計画的に履修しましょう。

## 1. 単位取得についての注意

- ①卒業時までには97単位の履修が必要です。履修科目は全てが必須科目です。
- ②履修科目は、1年次・2年次・3年次と履修の時期が学びの段階に応じて決まっています。

## 2. 科目評価について

- ①評価方法は、筆記試験・レポート・実技試験・出席・講義の参加度・授業態度等、各講師により講義要綱に提示しています。必ず確認しておきましょう。講師によっては、開講時に講義要綱の内容を変更する場合がありますのでご了承ください。
- ②科目評価に関する提出物は、時間を厳守してください。提出時間が遅れると、評価に影響しますので、注意してください。
- ③受験資格は、講義の2/3以上の出席時間をもって得られます。15時間という短時間の講義もあります。出席時間不足の場合は、受験資格を失います。
- ④公共交通機関の遅れで受験できない場合は、遅延証明書を提出してください。病気の場合は「医師の診断書」または「受診証明書(学生便覧参照)」が必要です。証明書と追試験願いをもって追試験を受けることができます。それ以外で校長がやむを得ない理由と判断した場合は追試験として受験できる場合があります。(各用紙はホームページにもあります)
- ⑤再試験は、学科試験の成績が合格点に満たない科目のある者に対して校長が認め行うものです。寝坊や勘違い、無断欠席で本試験が受けられない場合は認められません。  
また、演習科目や講師の判断により、再試験を行わない科目もあります。
- ⑥再試験願いは試験結果返却後3日以内に行ってください。再試験願が承認されないと、受験することはできません。また、再試験を受ける時に、再試験願いの提示が無い場合は受験ができません。
- ⑦形態機能学、病態生理治療論、看護方法、各専門科目の中で、複数の講師により構成されている科目があります。それぞれが評価方法を提示してありますので、事前に確認してください。

## 3. 開講時の準備について

- ①時間割で開講、終講、試験日を確認し、計画的に学習を進めましょう。
- ②開講前には必ず講義要綱を読み、科目の概要を把握し、必要なテキストの準備をしておきましょう。講義によっては事前学習の課題があります。準備期間を考えて早めに準備をしておきましょう。
- ③テキスト以外にも参考文献の紹介もあります。参考文献はできる限り図書室に入れてあります。参考にしてください。

## 4. テキストの取り扱いについて

- ①テキストは、購入後速やかに不足していないか、乱丁等の不備がないかを確認し、不都合のある場合は、直接購入した書店に連絡してください。
- ②テキストの管理は自己責任です。テキストには必ず名前を明記してください。同学年が同じテキストを持っています。置き忘れた場合、誰の物が分からなくなります。紛失した場合は再度購入していただきます。

## 5. 効果的な学習をするために

- ①わからないことはそのままにせず、テキストや参考書を熟読し、また質問するなど理解できるよう努力しましょう。
- ②皆さんの知識は、究極的には患者の看護に活用するものです。したがって、ほとんどの講義は丸暗記では対処できません。なぜそうなっているのか等根拠を踏まえながら理解する必要があります。そうしないとその他の知識と関連付けられず、結局忘れ去られる知識となり積み重なっていきません。知識は、積み重なっていき関連しあっていくものです。実習・国家試験に繋がる学習に心がけましょう。
- ③講義を大切にしましょう。講義では考え方や重要な点を押えます。講義は一回性のものです。その時その時の講義をどこまで大切にできるのかが、知識の定着に大きく影響することを心から伝えたいと思います。
- ④講義資料は、整理してその後活用できるようにしておきましょう。結局頭の中を整理することにもなり、実習の準備学習、国家試験の学習に大いに役立つものです。
- ⑤高校までの授業とは違い、板書やプリントがなく、講師の話聞きながら大事なことを自分でノートを取っていく講義もあります。また、テキストを横に置き、書き込んだり、アンダーラインを引いたりしながら流れるように進んでいきます。考えをまとめたレポートを求められることも多いです。そのため、主体的な学習姿勢つまり受け身の学習から自主的な学習へと変えていかなければ、学習が追い付いていきません。

## 6. その他の連絡事項、留意事項

- ①時間割の変更について  
時間割変更は1階の掲示板にて連絡します。またGoogleクラスルームに提示します。緊急を要する場合は口頭でお知らせします。掲示板は登校時、昼休み、下校時の3回確認する習慣をつけましょう。
- ②学校図書で看護学生向け看護雑誌の年間購入をしています。学習の仕方・新しい知識・その他役立つ内容が多くあります。情報は自分からも取っていきましょう。雑誌だからこそ、最新の知識を得ることもできます。活用していきましょう。
- ③終講時には、「学生による授業評価」を実施しています。目的はその科目に対する学生自身の学習姿勢や学びの振り返り、講師および教員の授業改善に向けての評価のために実施しています。授業評価の結果は担当講師に伝え、結果に対する返信を公開しています。真剣な取組を切にお願いします。
- ④講義中は、私語や飲食はしないでください。
- ⑤基本的にスマートフォンや携帯電話での通話はもちろん、メール操作なども禁止です。
- ⑥居眠りをしないよう努力してください。
- ⑦マナーが悪ければ教室から退室を命じることや、出席時間として認めないことがあります。
- ⑧校内実習中は、お互いを姓で呼び合い、丁寧な言葉を使うことを習慣化してください。

## 7. 学科試験(単位認定試験)実施要領

### ①学科試験の目的と心構え

単位認定試験は学生の成績評価方法の一種として行われますが、国家試験の受験資格や卒業のための要件や大学編入、大学院進学のための条件となるものであります。したがって、試験を受ける心構えとしては、単位認定試験を神聖なものと重く受け止め、カンニングや不正行為は絶対にしてはいけない禁止事項です。本試験を受けるために体調を整え、欠席することのないようにしましょう。

### ②単位認定試験の注意事項

- ・席順は窓側より学籍番号順とする。
- ・試験会場内では携帯電話・スマートフォンの電源を切る。
- ・机の中に物が入っていないことを確認する。
- ・机の上の落書きや走り書きがないことを確認し、あれば消す。
- ・机と机の間隔はどの列も等間隔に整える。
- ・鞆やテキスト、ノートなどは通路に置かずロッカーに片付ける。

- ・試験開始 5 分前になったら必要なもの(鉛筆、シャープペンシル、消しゴム)以外は片付ける。
- ・試験開始前の私語は禁止とし、講師または試験監督者を着席して待機する。
- ・試験問題、解答用紙が配布されたら、指示があるまで試験問題や解答用紙には触れない。
- ・試験開始の合図で表にし、学籍番号、氏名を所定の箇所に記入する。
- ・試験問題、解答用紙の印刷に不鮮明な箇所がある場合は静かに挙手し、講師または試験監督者が側についたときに質問する。
- ・試験中に気分が悪くなった場合やトイレに行きたくなくなった場合は、静かに挙手し、指示に従うこと。
- ・科目時間内の試験では基本的に退室は認めない。退室した場合、欠課時間となり、再入室は認めない。
- ・試験終了の合図があったら筆記用具を置いて問題用紙および解答用紙を裏返しておく。
- ・講師または試験監督者の指示に従って試験問題、解答用紙をすべて回収する。

### ③単位認定の学科試験における遅刻者への対応

- ・個人的事由(寝坊、勘違いなど)による遅刻の場合、試験開始 15 分以内を限度に受験を認める。それ以降の入室は認めない。

### ④不正行為の禁止

- ・単位取得規定に違反した場合は、厳重な措置がとられる。
- ・カンニングは不正行為である。
- ・講師または試験監督者の指示に従わない、または不正行為や、不正行為をしようとする挙動(キョロキョロする、覗き込むなど)が認められる場合は不正行為とみなし、試験失効とする。
- ・試験問題、解答用紙の回収中に私語をした者は、不正行為とみなし、試験失効とする。
- ・携帯電話やスマートフォンによる試験問題の撮影も不正行為とみなし、試験失効とする。

## 8. 再履修・聴講について

### ①再履修について

- ・再履修が決定した場合、新年度当初に「再履修登録」を提出し「承認」を得る必要がある。
- ・年度当初に必ず学年主担当に提出し、確認を受ける。
- ・専門基礎科目等の外部講師の科目については学年主担当の「承認」を受ける。
- ・専門科目等の学内教員が担当する科目は担当責任者、領域責任者に提出し「承認」を受ける。
- ・年度の「再履修登録表」の担当の「承認」が得られたら、教育係長・副校長兼教務課長・学校長の決済印を受ける必要があるため、学年担当教員に提出する。
- ・再履修登録表に校長印で「承認」を受けるまでの手続きをもって、再履修が認められる。
- ・学生は、科目開講時に各講師に自己の状況報告をし「再履修受講」の旨をお願いする。
- ・昨年度の「不可」の課題を踏まえ、単位修得のための学習計画を作成し、これを基に学習する。(自己学習を十分に行う事)
- ・出席管理、単位認定試験受験資格等に関しては学則等と同じ。
- ②「不可」科目があり単位が認定されないまま、次の年次に再履修が認められた場合について
  - ・次の年次の履修をしながら「再履修」する者は、並行して行われる新年度の科目の出席管理、単位取得等を視野にいれ計画的に学習管理する。(再履修科目出席予定・確認表などを活用しながら、担当教員に相談し指導助言を受ける)
  - ・各科目の再履修登録の手続きは上記に同様。
  - ・やむを得ず臨地実習を受けながら、他の科目を履修する場合には、臨地実習に支障が無く進められるよう計画的に実施する。
  - ・授業クラスの机等は当該学生が責任を持って準備、片づけを行う。
  - ・再履修科目出席予定・確認表は教員室内の所定のケース内に保管管理する。
  - ・再履修科目の受講の際に当該科目出席簿と共に管理するので、出欠席は毎回講師に報告する。
  - ・科目の必要時間を終了したら、科目出席時間数を記入し授業出欠席を学年副担当に報告する。
  - ・再履修登録票は自己管理し、全ての再履修が終了した際に学年主担当に提出する。



### ③聴講について

- ・原級留置学生又は復学後で、科目単位は修得しているが、学習強化・学力向上を目的に講義を受講する学生が対象になる。
- ・聴講希望については、学生の自己決定・自己責任であるが自己の課題を踏まえ検討する。必要時は担当教員の助言を受け決定する。
- ・既に科目評価は決定しているため、聴講後の科目試験は受けることはできない、
- ・聴講願いは、新年度当初に「聴講願い」を提出し「許可」を得る必要がある。
- ・年度当初に出された、聴講希望科目の必要性、妥当性については学年担当に提出し確認を受ける。
- ・専門基礎科目などの外部講師の科目については学年主担当の「許可」を得る。
- ・専門科目等の学内教員の担当科目については科目担当責任者、領域責任者の確認、「許可」を得る。
- ・学生は外部講師の開講日に、直接講師に報告し「聴講」をお願いする。
- ・許可を得た科目の聴講は開講から終講前まで他の学生同様に継続して講義を受ける必要がある。
- ・提示される、課題やレポート、GWなども参加する。(事前の提示課題なども受ける)
- ・受講姿勢が学習者としてふさわしくなく、他の学習者への影響が大きいと講義担当者が判断した場合は聴講願いの許可を中断する事もある。
- ・臨地実習は患者の権利尊重、実習場の指導体制などの社会的状況から、聴講はできない。
- ・演習科目は状況によって、単位修得学生の指導を優先するため実施できない場合がある。

教科課程進度表

教科		単位数	年次	3												
				月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
基礎分野	科学的 思考の基盤	生命倫理学	1	30	—			—		—		—				
		死生学	1	15				—								
専門基礎分野	健康支援と 社会福祉制度	総合医療論	1	15	—				—							
		成人看護実習	2	90		—	—			—	—					
専門分野Ⅱ	臨地実習	老年看護実習Ⅱ	2	90		—	—			—	—					
		小児看護実習	2	90		—	—			—	—					
		母性看護実習	2	90		—	—			—	—					
		精神看護実習	2	90		—	—			—	—					
		在宅看護実習	2	90		—	—			—	—					
統合分野	看護の統合と実践	医療安全と看護管理	1	30	—			—								
		国際看護と災害看護	1	20						—	—					
		看護研究	1	30	—	—	—	—								
		総合看護実践	1	30						—	—	—				
	臨地実習	在宅看護実習	2	90		—	—			—	—					
		統合実習	2	90							—	—				

### 3年次 履修科目・時間数・単位数・担当講師

基礎分野					
科目	時間数	単位	担当講師	内外の別	時期
生命倫理学	30	1	松田純・村松岳時	学外	4月

専門基礎分野					
死生学	15	1	中村・山下他	学内外	7月
総合医療論	15	1	友山・中村	学内・学外	4月

専門分野 II					
成人看護実習	90	2	学内教員・実習指導者		4月～11月
老年看護実習 II	90	2			
小児看護実習	90	2			
母性看護実習	90	2			
精神看護実習	90	2			

総合計				
基礎分野		1単位		30時間
専門基礎分野		2単位		30時間
臨地実習		10単位		450時間
統合分野		4単位		110時間
臨地実習		4単位		180時間
教科外活動				78時間
合計(14科目)		21単位		878時間

統合分野						
統 合 と 実 践	科目	時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期
	医療安全と看護管理	30	1	増田・後藤・山梨・石川	学内・学外	4月
	国際看護と災害看護	20	1	那須・加藤	学内・学外	7月
	看護研究	30	1	亀澤・吉田	学内	4月
	総合看護実践	30	1	西川・後藤	学内	10月
実 臨 地 実 習	在宅看護実習	90	2	学内教員・実習指導者		4～11月
	統合実習	90	2	学内教員・実習指導者		12月

教科外活動						
接 遇		4		上藤美紀代	学外	4月
特 別 講 義		4			学外	4・10月
履 修 ガ イ ダ ン ス		2			学内	4月
実 習 ガ イ ダ ン ス		2			学内	4月
入 学 式 ・ 載 帽 式 ・ 卒 業 式		6			学内	4・5・3月
健 康 診 断		2			学内	4月
防 災 訓 練		4			学内	10月
新 入 生 歡 迎 ス ポ ー ツ 大 会		8			学内	4月
載 帽 記 念 講 演 会 ・ 卒 業 記 念 講 演 会		4			学外	5・10月
学 校 祭 ( 桂 花 祭 )		8			学内	10月
ホ ー ム ル ー ム		8			学内	4・7・12・3月
ケ ー ス ス タ デ ィ 発 表 会		6			学内	9月
華 道 ど ち ら か 選 択 }		10		増田洋子	学内	4～12月
茶 道		10		青島智子	学外	4～12月
テ ニ ス		10		石川節雄	学外	4～7月

看護の統合と実践 進度表

科目 担当者	科目 単元	担当	時間	方法	3年次															
					4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3					
後藤	医療安全と看護管理 看護管理 看護倫理・医療安全 医療安全、試験 医療安全	山梨 増田 後藤 石川	10	講義																
			8	講義																
			6																	
			6	講義																
後藤	国際看護と災害看護 国際看護 災害看護・試験	那須 加藤	8	講義																
			12	講義																
吉田	看護研究 看護研究の基礎的知識 ケーススタディ	亀澤 吉田	10	講義																
			20	講義・演習																
後藤	総合看護実践 事例をもとに演習 事例をもとに演習、客観的臨床能力試験	西川 後藤	12	演習																
			18	演習・試験																

# 基礎分野



## 授 業 概 要

科目名	生命倫理学	担当者	松田 純 村松岳詩	年次	3	時単 間位	30時間／1単 位
ディプロマポリシーで目指す力		探求する力・責任と役割を果たす力					
学 修 内 容	<p>①生命倫理学(バイオエシックス)は米国で1960年代以降に誕生した新しい学問です。脳死者からの臓器移植や、生殖補助医療や出生前診断など、医療技術が進歩したがゆえに生じる倫理問題を扱います。「人間としていかに生きるべきか」という一般道徳も前提になりますが、医療者としてどう行動すべきかという職業倫理が中心になります。</p> <p>②先端医療が提起するさまざまな倫理問題を考えるとともに、看護師が臨床現場で出会うモラルディレンマをケースに即して検討します。</p>						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療分野と密接に関わる生命倫理学の概念と原則が理解できるようになる。</li> <li>・先端医療が提起する諸問題について、他者と論理的に議論しながら理解、表現する力を身につける。</li> <li>・臨床現場で出会うモラルディレンマを認識し、適切に判断し、行動する能力を養う。</li> </ul>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 生命倫理学とは？ 生命倫理学の原則と看護倫理						グループ・ディスカッション
	第2回 病気、健康とは？						スモール・プレゼンテーション
	第3回 地域保健医療と21世紀型医療の目標						レポート(各回)
	第4回 人生の最終段階の医療と意思決定						
	第5回 出生前診断と生命倫理学						
	第6回 生殖補助医療と生命倫理学						
	第7回 遺伝医療と倫理・法・社会						
	第8回 パーソナルゲノム時代の医療と倫理						
	第9回 脳神経科学と生命倫理学(1)						
	第10回 脳神経科学と生命倫理学(2)						
	第11回 再生医療研究と生命倫理学						
	第12回 エンハンスメントと願望実現医療						
	第13回 医療資源の配分と倫理(マクロ配分)						
	第14回 医療資源の配分と倫理(ミクロ配分)						
	第15回 まとめ 試験						倫理的諸問題に関する論述試験
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方法 筆記試験及びレポート評価</li> <li>・基準 本校の基準に沿って評価する。</li> </ul>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題</li> <li>・留意点 臨床現場で出会う難しい倫理的ディレンマのケースを、スモール・グループディスカッションで検討します。成績は、筆記試験の他、ディスカッション時の記録(レポート)等を参考にするので、積極的に活動に参加し発言されることを期待します。</li> </ul>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト 書名:看護学生のための医療倫理 編著:盛永 審一郎 発行所:丸善 書名:薬学と倫理、著者:平井みどり、松田純、中田亜希子、南山堂、2022年</li> <li>・必要物品</li> </ul>						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> <li>書名:ケースで学ぶ 認知症ケアの倫理と法、南山堂</li> <li>書名:こんなときどうする? 在宅医療と介護 ケースで学ぶ倫理と法、著者:松田純ほか編、南山堂</li> <li>書名:看護倫理、著者:小西恵美子(編)、南江堂、</li> <li>書名:安楽死・尊厳死の現在 最終段階の医療と自己決定、著者:松田純 中公新書</li> </ul>						





專門基礎分野



## 授 業 概 要

科目名	死生学	担当者	森誠、中村美智太郎、 山下秀智、小野田貴夫 吉野吾朗、遠藤友香、吉田五百枝	開講時期	3年前期	単位時間	15時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力・思いやる力					
学修内容	様々な学問的な視点から「死と生」に対する講義をオムニバス形式で受講する。そして看護学の理解や臨床での経験、自己の経験から育まれてきた死生観を基に、改めて「生きること、死ぬこと」について見つめ、看護学生としての自己の理解を深めたい。（各学問分野:生物学、哲学、宗教学、医学、看護学、文学等）						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野の講義を受け、その学問的視点から自分自身の死生観をレポートする。</li> <li>・6つの学問的視点からの学びを元に看護学生としての死生観をまとめる。</li> <li>・「私が考える人間が死ぬということ」を明らかにする。</li> <li>・「私が考える人間が生きること」を明らかにする。</li> <li>・「私が考える人間の生と死を支援すること」を明らかにする。</li> </ul>						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	1) 様々な学問的な視点から死生観を学ぶ。 ①生物学的な視点(静岡大学名誉教授 森誠先生) ②哲学的な視点 (静岡大学教育学部 中村美智太郎先生) ③宗教学的な視点(静岡大学名誉教授 山下秀智先生) ④文学的な視点 (常葉大学短期大学部 小野田貴夫先生) ⑤医学的な視点 (藤枝市立総合病院緩和ケア科 吉野吾朗先生) ⑥看護学的な視点(藤枝市立総合病院 がん化学療法認定看護師 遠藤友香先生)  2) 受講後は個人個人の死生観について語り合い、意見交換する。  3) 様々な視点からの学びをもとに自己の死生観を探求し、レポートにまとめる	①～⑥の講義終了後毎回小レポートを提出する。 講義の順序は上記と異なる事があります。  小グループでの意見交換  課題レポート提出: 評価対象					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方法 ・筆記試験(レポート:担当 吉田)</li> <li>・基準 ・全体の総合計100%に対し、本校の規定に沿って評価する。</li> </ul>						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題</li> <li>・留意点 ・1回1回の講義の内容をこれまでの自己の経験や価値観に照らし合わせ「生きる」とはどのような事か、「死ぬ」とはどのような事かを看護学生として考えを深める機会となるよう真摯な姿勢で学習してください。                ・本講義は最高学年である3年次で自分自身の死生観を確立し、将来、終末期にある人々に看護の役割が果たせることを目標としています。多くの学問分野からの提言をもとに各自の「死生観」を見つめ直してください。</li> </ul>						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト なし</li> <li>・必要物品</li> </ul>						
参考文献	その都度の講義のなかで紹介される。						

## 授 業 概 要

科目名	総合医療論	担当者	中村 利夫 友山 眞	開講時期	3年前期	単位時間	15時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		責任と役割を果たす力					
学修内容	保健医療に関する知識を修得し、看護師としての基本的態度を身につける。						
到達目標	現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその背景を総合的に知ることによって、専門職として社会に貢献する方向性、視点について理解する。						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回：講義	医学、医療とは何か、生命について考える。	（友山）	}	講義形式（配布資料等）		
	第2回：講義	医学史					
	第3回：講義	健康・病気・医学の体系、病気の原因・症状					
	第4回：講義	病気の診断と治療					
	第5回：講義	病気の予防					
	第6回：講義	新しい医療システム	（中村）	}	試験		
	第7回：講義	生命へのアプローチ、健康教育と衛生統計					
	第8回：試験	試験（45分）					
成績評価	・方法	筆記試験、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望：自主的な勉学を望みます。（中村）					
テキスト・必要物品	・テキスト	系統看護学講座 別巻 総合医療論		医学書院			
	・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎 医療概論		医学書院				

# 統合分野



## 授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (医療安全・看護倫理)	担当者	後藤治美 石川 嘉子 増田瑞枝	開講時期	3年次前期	単位時間	20/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を探究する力		責任と役割を果たす力			
学修内容	<p>「看護倫理」は私たち看護師が看護を行ううえで守るべき「道徳」や「規範」であり質の高い看護を提供するための「考え」や「行動の指針となるものである。「看護職の倫理綱領」をもとに日常の看護活動における倫理的ジレンマを伴う事例をグループワークを行い倫理的課題の最適解を見出す考え方を学ぶ。</p> <p>医療の高度化・専門化に伴い医療現場はさまざまなリスクが存在している。医療者にとって安全管理は重要な概念である。講義では「医療安全」の基本的知識および看護職の責務と役割、医療現場における危険予知回避・事故防止などの安全対策の理論と方法について演習を交えながら学んでいく。</p>						
到達目標	<p>①医療安全の基本的知識を理解し、医療安全教育の必要性を認識するとともに、看護・医療事故予防に必要な能力・行動について考えることができる。</p> <p>②実際の場面や事例より、それぞれに具体的な対策を考えることができる。</p> <p>③看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行なうための枠組みを習得する。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 専門職に求められる倫理	看護倫理とは	増田	増田	増田	増田	講義
	第2回 実習場面で経験した、または感じた倫理上の課題の検討		増田	増田	増田	増田	グループワーク
	第3回	グループワーク発表	増田	増田	増田	増田	発表会
	第4回	看護師における倫理的判断に必要な知識 看護の倫理原則 看護実践上の倫理的概念	増田	増田	増田	増田	講義
	第5回	医療安全と過失 看護事故の構造と防止対策 専門職としての責務と看護師の法的責任	後藤	後藤	後藤	後藤	講義
	第6回	医療安全の基礎	石川	石川	石川	石川	講義
	第7回	危険予知トレーニング	石川	石川	石川	石川	グループワーク
	第8回	チームステップス・医療メディエーション	石川	石川	石川	石川	講義・グループワーク
	第9回	実習場面での「ヒヤリハット体験」を共有化 「ヒヤリハット体験」から医療安全を守るためにどのように行動するか	後藤	後藤	後藤	後藤	グループワーク
	第10回	筆記試験 グループ意見共有 ※講義予定は前後する場合がありますので、ご了承ください。	後藤	後藤	後藤	後藤	発表会
成績評価	<p>・方法 「看護管理」単元と合算して100点となる、 筆記試験：医療安全・看護倫理に関する基本的な知識の確認 (石川先生25点、増田25点) レポート テーマ「安心・安全な医療・看護を提供するため、どんな看護専門職を目指すか」(後藤20点)</p> <p>・基準 筆記試験：本校の基準に準ずる</p>						
事前課題 留意点	<p>・事前課題 「看護者の倫理綱領」をじっくりと読んでから授業に出席すること。課題詳細は授業内で説明する。 事前課題のレポートをもとにグループワークをおこないます。各自準備をして臨んでください。(増田)</p>						
テキスト	<p>・テキスト</p> <p>① 系統看護学講座統合分野「看護管理」看護の統合と実践① 医学書院 ② 系統看護学講座統合分野「医療安全」看護の統合と実践②, 医学書院 ③ 系統看護学講座別巻「看護倫理」 医学書院 ④ 「よくわかる看護者の倫理綱領」 照林社</p>						
参考文献	<p>茂野香おる他：系統看護学講座専門分野Ⅰ「看護学概論」基礎看護学① 医学書院</p>						

## 授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (看護管理)	担当者	山梨 美鈴	開講時期	3年前期	単位時間	10/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力・探求する力・責任と役割を果たす力					
学修内容	看護管理の基本を理解する。 よりよい看護を提供するための資源やしぐみについて知り、組織の一員として看護管理を考える。						
到達目標	看護管理の基本がわかり、必要な資源や組織の一員としての看護管理について理解を述べることができる。						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	1. 看護管理とは 看護を取り巻く諸制度 看護職と専門性 医療制度 2. 看護ケアのマネジメント チーム医療 リーダーシップ コミュニケーション 3. 看護サービスのマネジメント キャリア形成 キャリアディベロップメント 4. 看護サービスのマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 組織化 看護ケア提供システム 5. 看護サービスのマネジメント 労働環境 安全管理 マネジメントに必要な知識と技術			講義  講義 ワーク  講義  グループ演習  グループ演習			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方法 筆記試験(30点分) 出席状況を加味する</li> <li>・基準 本校の基準に沿って評価する。</li> </ul>						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題</li> <li>・留意点 参加型の授業となるよう心掛けるので、積極的に授業に取り組んでいただきたい。</li> </ul>						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト 系統看護講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 医学書院</li> <li>・必要物品</li> </ul>						
参考文献							



## 授 業 概 要

科目名	国際看護と災害看護 「国際看護」	担当者	那須 ダグバ 潤子	開講時期	3年後期	単位時間	8/20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力・思いやる力・地域社会に貢献する力					
学修内容	グローバル化する時代に必要とされる看護師の能力とは何か。本講義では、映像、資料などを手掛かりに、日本および国際社会に生じている諸問題について考えるほか、グローバルヘルスの現状と課題、国際保健政策、国際看護活動、外国人患者への看護などを学ぶ。世界の人びとの保健医療にかかわる現状を理解するとともに、国内外問わず異文化理解が重要であることを理解し、国際力豊かな看護師として成長するための基礎を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内外での国際看護活動をするための基礎的な方法を理解することができる。</li> <li>2. 世界の保健医療の現状および健康問題と、国際看護活動における看護職の役割について理解できる。</li> <li>3. 世界の多様性を考慮した看護実践について、自分の考えを述べることができる。</li> </ol>						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
第1回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界の多様性、国際看護の概要</li> <li>2. 異文化理解と看護</li> </ol>	パワーポイントに沿った口演 参考資料の提示と説明 質疑応答 ディスカッション 映像学習 授業評価アンケートの実施					
第2回	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 開発途上国と貧困</li> <li>4. 看護の国際協力</li> </ol>						
第3回	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 在日外国人の看護</li> <li>6. 医療通訳</li> </ol>						
第4回	<ol style="list-style-type: none"> <li>7. ジェンダーと差別</li> <li>8. グローバル化時代の看護</li> </ol>						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方法 課題レポート</li> <li>・基準 本校の基準に沿って評価する。</li> </ul>						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題 世界の動向について、ニュース、新聞から情報を得ておく。</li> <li>・留意点 グループワーク、ディスカッションを行う場合は全員が発言し、積極的に講義に参加すること。普段から国内外の複数の新聞を読み、世界の動向を把握する習慣をつけることを推奨する。</li> </ul>						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト 授業中に適宜資料を提示する。</li> <li>・必要物品 パソコン プロジェクター、スピーカー DVD映写機</li> </ul>						
参考文献	授業中に適宜資料を提示する。						

## 授 業 概 要

科目名	国際看護と災害看護 「災害看護」	担当者	加藤 温美	開講時期	3年前期	単位時間	12/20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力・思いやる力・地域社会に貢献する力					
学修内容	災害という突然の緊急事態に対し、人としてまた医療者として何を優先してどう動くべきかを考える。二つとして同じ災害は無いが基本のコンセプトは同じである。その学びより防ぎえた災害死の回避を目標に復興までの長い道のりを非日常に陥った被災者の為に、変化していく災害フェーズに対応しながら自分に何ができるのかを考え、どんな行動ができるのか、そしてあの日を忘れない(震災の日)寄り添える災害看護を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、災害時の基本のコンセプトCSCATTTを理解する。</li> <li>2、実際の被災地での支援と、多職種連携の災害医療を理解する。</li> <li>3、災害フェーズによる健康被害と看護の役割を理解する。</li> <li>4、心のケアを含めた災害看護の学びより自分のこれからの看護に結び付けて考えることができる。</li> <li>5、実災害時に役立つよう、1次トリアージを理解する。</li> </ol>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回・災害の種類と災害サイクル ・CSCATTT① ・被災地の話 第2回・災害サイクルと看護ニーズ ・災害による健康被害 ・CSCATTT② ・災害急性期・病院での被災を考える 第3回・災害サイクルと看護ニーズ ・災害慢性期(復興期)の健康被害・避難所の現状 ・被災地の話 第4回・身近な物を代用した応急処置と災害における心のケア ・被災者、遺族、支援者の心境について考える ・被災地の話 第5回・災害医療の3T ・1次トリアージの実践とトリアージタグの記載 ・優先順位について・被災地の話 第6回 試験 ・災害キーワードの振り返り						・講義 ・教科書 ・パワーポイント ・動画 ・質疑応答 ・アンケート ・グループワーク ・実技
成績評価	・方法 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 指定したページのテキストの熟読。アンケート ・留意点 災害に対応できる力は平時からの行動ができていないと災害時にはできません。その中で、できない事わからない事を恥じる事なく発信できることを災害時にも繋げられるように、質問しながら授業を進めていきます。皆さんの知りたい事も毎回アンケートとっていきます。私の被災地での経験も伝えていきます。						
テキスト・必要物品	・テキスト ナーシング・グラフィカ ・必要物品 第4回 スーパーの袋、長袖のパーカー 第5回 秒付き腕時計(持っている人のみで可) 練習用トリアージタグ(全員分)この日は全員動きやすい服装で。						
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>①DMAT標準テキスト(改定第2版)へるす出版</li> <li>②東京くらし防災 東京都</li> <li>③災害現場のトリアージと応急処置 日本看護協会出版会</li> <li>④多職種連携で支える災害医療 医学書院</li> <li>⑤日本DMAT養成研修資料</li> <li>⑥被災地で活動するナースの為に災害派遣シミュレーションQ&amp;A</li> </ol>						

## 授 業 概 要

科目名	看護研究	担当者	亀澤 ますみ 吉田 五百枝	開講時期	3年次後期	単位時間	30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力		看護を探究する力:これまでの学習経験を踏まえて自己の看護観を明確				
学修内容	看護専門職者として質のよい看護の提供を迫るための研究の必要性を学ぶ。研究における倫理的態度について理解し、自己の看護実践を振り返り、自己の課題と対峙ながら行うことで、その人に合った看護を追求していくための基礎知識を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の意義と必要性を理解し、研究への興味関心を高める</li> <li>2. 看護研究の分野と研究方法について知る。</li> <li>3. 文献学習の必要性について理解する。</li> <li>4. 看護研究におけるモラルと倫理的配慮について考える。</li> <li>5. ケーススタディの意義と方法を学ぶ。</li> <li>6. 3年次領域別実習の中からエピソードを記述し振り返ることで、糸口となる問題を認識し科学的に論じる。</li> <li>7. 問題の科学的解明に向けて、適切な文献を基に考察する。</li> <li>8. ケーススタディの一連を学び、収録・抄録を作成し、他者に伝わるよう発表する。</li> </ol>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<p style="text-align: center;">＜研究の基礎＞</p> <p>第1回：講義 看護研究の意義と研究の種類</p> <p>第2回：講義 看護研究論文を読む</p> <p>第3回：講義 看護研究における倫理的配慮と文献レビュー</p> <p>第4回：講義 エピソード記述とリサーチクエスチョンの実際</p> <p>第5回：講義・試験 ケーススタディ計画書作成について・試験</p>					<p>ICTを活用しながら文献検索の方法を学び実施する</p> <p>研究の基礎の範囲で小テストする</p>	
	<p style="text-align: center;">＜ケーススタディ＞</p> <p>第1回：講義・演習 ケーススタディの意義と方法</p> <p>第2回：講義・演習 ケーススタディの進め方</p> <p>第3回：講義・演習 看護実践と論文の構成</p> <p>第4回：講義・演習 論文の構成と文献検討</p> <p>第5回：講義・演習 リサーチクエスチョンと論文の構成</p> <p>第6～10回 演習 ケーススタディの作成</p> <p style="text-align: center;">発表</p>					<p>第1～5回 講義・グループワーク</p> <p>担当教員を決定し、レポート作成準備 担当教員毎のグループで相談・助言しながら進める</p>	
成績評価	<p>・方法：筆記試験(30%：研究の基礎)ケーススタディ(70%：担当教員)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 臨地実習での自己の課題やエピソードなどケーススタディの基となる事を記述しておく。 研究論文に触れ、論文の構成や記述の方法について慣れておく。</p> <p>・留意点 ケーススタディは、自己の実践を振り返り、看護における自己の課題や改善点を明確にする事が求められるので、真摯に自己と対峙する姿勢が求められる。そのためにも、研究における倫理的な態度について理解を深めることが重要である。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 坂下玲子：系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 森田夏実他：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p> <p>・必要物品 開始後に指示する文献</p>						
参考文献	<p>南 裕子編：看護における研究、日本看護協会出版会 川村佐和子編：ナースングラフィカ19 看護研究 メディカ出版</p>						

## 授 業 概 要

科 目 名	総合看護実践	担 当 者	西川 はるみ 後藤 治美	開 講 時 期	3年次後期	単 位 時 間	30時間 /1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力・看護を探究する力					
学 修 内 容	既習の知識、技術を活用し、また自己の看護観を大切にしながら、複数受け持ち時の看護をその場の優先順位を判断しながら、実践できる能力を養う。ここから看護専門職となる人としての自己の看護実践の課題を明らかにし、臨床現場へ出る自分をイメージすることができるようにする。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の事例を理解し、複雑な状況下での看護を計画し実践する演習を通して、様々な優先順位の決定や、他者と協働すること、複数受け持ちでの倫理的配慮や安全性の確保について、リアルな現場をイメージしながら理解する。</li> <li>2. 看護実践者としての自己の傾向に気づき、今後の課題を明確にする。</li> </ol>						
授 業 計 画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	<b>9月期実習後</b> 第1～3回：事例の看護を考える（西川） 第4～6回：関連学習をしながら行動計画の立案（西川） 第7回：計画の実施（ロールプレイ①）（後藤） 第8回：振り返り、対象理解を深めて再計画（後藤） <b>10月期実習後</b> 第9回：臨床の複雑な状況をふまえて再計画（後藤） <b>10・11月期実習後</b> 第10回：計画の実施（ロールプレイ②）（後藤） 第11回：振り返り（後藤） <b>統合実習後</b> 第12回：統合実習での学びを共有、試験オリエンテーション（後藤） 第13、14回：客観的臨床能力試験（OSCE）（後藤） 第15回：凝縮ポートフォリオの発表（後藤）	プロジェクト学習の方法で グループ学習を進めていく  ロールプレイ グループディスカッション   ロールプレイ シミュレーション   講義 OSCE 凝縮ポートフォリオ作成と発表					
成 績 評 価	<b>・方法</b> 知識確認テスト5点、OSCE75点（実技55点、リフレクション40点）、凝縮ポートフォリオ20点 合計100点						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<b>・事前課題</b> 事例に関する学習は、個人で計画的に行う。  <b>・留意点</b> 総合看護実践は、現場のリアルな状況をイメージし、事例の複雑な状況に対応した看護を、どのように判断し、行動していくかをプロジェクト学習という方法で学んでいく。詳しい内容は、授業前にオリエンテーションする。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<b>・テキスト</b> 統合科目であるため、今まで学習したことすべての積み重ねである。特に指定するテキストはない。  <b>・必要物品</b> 今まで培った知識と技術。						
参 考 文 献							

教科外活動  
テキスト一覧



## 授 業 概 要

科目名	接 遇	担 当 者	上 藤 美 紀 代	開 講 時 期	1年前期 2年前期 3年前期	単 位 時 間	各4時間
学 修 内 容	臨床において、患者・患者家族との信頼関係を築くことは最も重要であり、特に患者や患者家族と接する時間が一番多い看護師には、信頼を得るための能力が求められる。その能力の一つとしてマナーや接遇について学び、心得や技術を身につける。「看護の基本＝患者の立場になって考え、行動することが大切」ということを再認識し、「思いやりの心」を態度や言動で表すことができるようにスキルアップを図る。						
到 達 目 標	1年次：接遇とは何か。臨床に即した心構えやマナーを学ぶ。 2年次：本格的な実習に向けて、患者・患者家族とのコミュニケーションを学ぶ（在宅看護にも力を入れる）。 3年次：就職活動に向けて好印象を与える自己表現を学ぶ。						
授 業 計 画	授 業 テ ー マ			方 法（形成評価等を含む）			
1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションにおける声のもつ力の重要性を知る。</li> <li>・挨拶と返事 / 身だしなみ / 言葉遣い / 笑顔 / 所作 など社会人としてのマナーを学びながら、患者・患者家族との接し方を考える。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴォイスセラピーについて学び、呼吸法、発声法、滑舌、声遣いなど、よりよいコミュニケーションをはかるためのスキルを身につける（思いやりを表現する力をつける）。</li> </ul>			
2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戴帽式を迎え、看護師への道を歩む決意を新たにしたところで、その思いを恩師など尊敬する方に手紙で伝える（敬語をはじめ文章表現をチェックする）。</li> <li>・実習事例のプリントなどをテキストとし、自分だったらどうするか、どう対応できるか、望ましい方法は何かなど、グループディスカッションを通して学びを深め 実習に備える。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙を書いてもらい、文章力・表現力をみる。敬語の使い方や語彙力をみながら、手紙の書き方も指導。感性も養いたい。</li> <li>・実習事例については、クラスメイトとの意見交換を通し、自信を持てるように促す。</li> </ul>			
3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生になっての意気込みを発表する。</li> <li>・面接場面を想定し、働く意欲や志を好印象を与えながら伝える技術（自己表現）を学ぶ（自信を持って就職活動に臨めるよう促す）。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1コマ目の授業で学生一人ひとりの課題を指摘し、2コマ目でその課題を改善（克服）できるように工夫した発表（自己PR）に導く。</li> </ul>			
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方法           なし</li> <li>・基準           なし</li> </ul>						
事 前 課 題・留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題</li> <li>・留意点</li> </ul>						
テ キ ス ト・必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト       授業時にプリントを配布する。</li> <li>・必要物品       筆記用具。3年次は、面接場面を想定しての服装（ビジネススーツ、ヘアメイクなど）。</li> </ul>						
参 考 文 献							

## 授 業 概 要

科目名	華 道	担当者	増田 洋子	開講時期	3年	単位時間	10時間
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に花の潤いを取り入れ、心豊かな過ごし方を一緒に考えます。</li> <li>・いけ花の基本的な形、花の扱い方、道具の扱い方を学びます。</li> <li>・季節ごとに歳時があることを学び、花を添える大切さを学びます。</li> </ul>						
到達目標	生け花の基本を身につける。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	いけ花の基本と道具について学ぶ 華道の歴史(成り立ち)について学ぶ		講義、実技 出来上がった作品を記録に残す (スマートフォン等で写真撮影)			
	第2回	授業日に近い歳時の意味と季節の花をいける					
	第3回						
	第4回						
	第5回						
成績評価	・方法           なし ・基準           なし						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点       はさみ、剣山等、ケガをする可能性があります。十分に注意して下さい。						
テキスト・必要物品	・テキスト      必要に応じて講師が準備します。 ・必要物品						
参考文献							



## 授 業 概 要

科目名	茶 道	担 当 者	青 島 智 子	開 講 時 期	3年	単 位 時 間	10時間 (12)時間
学 修 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茶道の意義と歴史を知る事で、理解を深める。</li> <li>・ 一服のお茶を通じて、人をおもいやる心と、感謝する心を養える様に学ぶ。</li> <li>・ 日常的なマナーを身につけ、立ち振るまい等、動作を美しく身につける。</li> <li>・ 静寂なひとときの中で、心の拠り所となり、自己を高めて、意識の啓発につなげる。</li> <li>・ 授業ごと季節を感じられ、日常歳時を知る事で、良識ある社会人となる様学ぶ。</li> <li>・ 茶道の実践を体験する。一服を味わう事で、茶味の変化を体験する。</li> </ul>						
到 達 目 標							
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：茶道について	日常生活の中で、茶道とのかかわり、立ち振る舞い、真行草のおじぎ、茶を点てて飲む、和菓子とお茶を味わう			講義と実技		
	第2回：茶道の歴史等	茶道の歴史を知ること。挨拶の仕方、抹茶の飲み方、菓子の取り方と頂き方。心静かに茶を飲む。					
	第3回：DVDで学ぶ	映像で、茶道を実感。抹茶を点てて、味わって飲む。和菓子の季節感と種類を知る。					
	第4回：茶室について	床の間の意味 → 軸の見方（読み方）、墨蹟について → 茶花について（見方と花材）。茶を点て他人に飲んで頂く。					
	第5回：炉開き	炉と風炉のちがい → 季節と茶道 → 炉開きのこと。席入りについて。茶道具について。全体のまとめ。					
	第6回：体験講座	未経験者に体験を中心にミニ講座を行い、茶道を経験してもらう。					
成 績 評 価	・方法	なし					
	・基準	なし					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	授業前後には掃除を行う。畳を拭く → 茶室は常に清潔にする。授業前には、手洗いして清潔にする。髪の毛の長い方は、ゴム等で結える等して受講する。担当委員の方は、ポット（熱い湯）2個、用意お願い致します。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校茶道用教本「裏千家茶道」（大学生用）〔財今日庵 発行〕各自1冊＝990円購入</li> <li>・DVD「お茶で豊かな心を」「お茶会に招かれ〔千宗室 監修 ⇒ 講師が持参します</li> </ul>					
	・必要物品	畳に座るので、膝が丸出ししない様に長めのスカート着用。替え靴下（白ソックス）持参。					
参 考 文 献							

## 授 業 概 要

科目名	テニス	担当者	石川 節雄 他	開講時期	3年	単位時間	10時間
学修内容	ラケットの握り方からゲームまで行います。楽しく、運動不足解消に努めます。						
到達目標							
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回～5回 経験者コースは普通のテニスボール、未経験者コースはグリーンボールを使用して、2クラス2名のコーチで指導します。各時間終了前(10～15分)、楽しくミニゲームを行います。準備体操を念入りに、ケガのないように努めます。			実技			
成績評価	・方法           なし ・基準           なし						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点       楽しく、けがのない様にやりましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト ・必要物品     運動のできる服装、シューズ、タオル、水分補給用ボトル						
参考文献							

令和5年度 3年次 テキスト一覧

	科目	講師名	書名	出版社
科基 目礎	生命倫理学	松田・村松	看護学生のための医療倫理	丸善
			薬学と倫理-薬剤師に求められる生命倫理・医療倫理・研究倫理-	南山堂
基専 礎門	総合医療論	友山・中村	系統看護学講座 総合医療論	医学書院
統合 分野	医療安全と 看護管理	山梨	系統看護学講座 統合分野 看護管理	医学書院
		石川	系統看護学講座 統合分野 医療安全	医学書院
		学内教員	系統看護学講座 統合分野 看護倫理	医学書院
	国際看護と 災害看護	加藤	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③災害看護	メディカ出版
	看護研究	学内教員	看護研究 系統看護学講座 別巻	医学書院
			看護学生のための新版 わかりやすいケーススタディの進め方	照林社
程外 課科	茶道	青島他	学校茶道用教本「裏千家茶道」(大学生用)	(財)今日庵発行 茶道文化振興財団

☆ 3年次の茶道のテキストは別途購入。





